

國學院大學

# 文学塾

第三期

募集案内

令和2年(2020)3月28日(土)開講

対象 高校生

会場 渋谷キャンパス 120周年記念  
1号館

\*先生方もぜひごいっしょにどうぞ



改元

書道

歴史学

中国文学

哲学

日本文学

外国語文化



申込スタート

Web事前申込制

参加無料

# 好きこそものの 上手なれ

## 國學院大學文学塾とは・・・

國學院大學文学部が主催する高校生のための新たな学びの場で、今年で3期目の開講となります。伝統ある國學院大學文学部ならではの専門性の高い内容で講義を行い、「もっと深く学びたい」「もっといろいろなことを知りたい」という知的好奇心の強い皆さんの期待に応えます。

今年度は、3月28日(土)に開講し、文学部の5学科に所属する専任教員がバラエティに富んだ講座を行います。好きな学科・テーマの講義をすべて受けてもよし、興味のある講義をつまみ食いしてもよし、学問の最先端を、ぜひ体験してください。

## 國學院大學文学部とは・・・

國學院大學文学部は、日本文学科・中国文学科・外国語文化学科・史学科・哲学科の5学科で構成されています。明治15年(1882年)創設の皇典講究所を母体とし、国史、国文、国法を専修する機関として出発した國學院大學135年の歴史と伝統を直接に継承する学部です。日本の文化や歴史に対する知見をもとに、諸外国の言語・文化、歴史、哲学について深く広く学ぶことができます。

## メッセージ

たとえばプロ・アマ問わずにスポーツ選手が「好きだから続けられた」と話したりしますね。では、学問研究の世界ではどうでしょうか。実は同じなのです。なぜ好きなのかと問われたら困るかもしれませんが、好きだから出来た、好きじゃなければ出来ないという気持ちが学者、研究者のこころの中心には必ずあるのです。これが好き、を前提にして喜怒哀楽が積み重なっていくのなら、この人生に悔いはないと思いませんか。

あなたは今の学びのなかでなにが好きですか。その教科書のなかのどこが好きですか。いままで受けてきた授業のどこかに魅力を感じませんでしたか。漠然とした気持ちでいいのです。そのあなたの気持ちの先に光っているものが文学塾できっと見つかります。

文学部の学問のなかに、あなたの宝石があなたに見つけられることを待っています。



文学部長 石川 則夫

専門分野:日本近現代文学 / 主に大正・昭和の小説・評論

令和

# 改元

中国文学科・日本文学科・史学科 横断企画

1時限

10:30

12:00

テーマ 新元号「令和」を考える -漢文学からみる背景-

長谷川清貴 准教授 専門分野:中国思想/主に先秦・漢代思想

新元号「令和」の出典は『万葉集』である、と公式に表明されています。「令和」が『万葉集』巻五所収「梅花歌」序の文言を出典とすることは確かですが、「梅花歌」序の制作を考えると、その背景には漢文学(中国文学)の影響があります。そして、ひと口に影響といっても、それは単に表現の模倣にとどまらず、文体や、発想における影響もあって、単純ではありません。

この時間では、「梅花歌」序、及びそれに影響を与えたとと思われる漢文学作品を読み、あわせて万葉びとの「創作」のありかたを考えます。



2時限

12:50

14:20

テーマ 亀と改元 -「神亀」「霊亀」と『万葉集』-

土佐秀里 教授 専門分野:『万葉集』を中心とした上代文学の研究

「令和」の出典が『万葉集』だというのが話題になりましたが、そもそも元号が始まったのがまさしく万葉の時代なのです。「大化」や「朱鳥」などの試行を経て、「大宝元年」(西暦七〇一年)以来、令和に至るまで元号は途切れずに続いてきました。しかし、改元のタイミングや理由は、時代とともに変わってきています。万葉の時代の元号に「亀」のつくものがあるのにも、この時代特有の理由があります。その理由をお話しましょう。



3時限

14:30

16:00

テーマ 改元はなぜおこなわれたの？

佐藤長門 教授 専門分野:日本古代王権/国家論

昨年4月30日の譲位に伴って、5月1日には「改元」がおこなわれ、それまでの平成から令和へと元号(年号)が変わったことは記憶に新しい出来事です。では日本の歴史上、改元はなぜおこなわれたのでしょうか。それには、主として4つの理由があげられています。本講義ではそれらを紹介するとともに、今回の令和改元がほかとは異なっている点についても、いくつか指摘してみたいと思います。

写真は平城宮木簡(奈良文化財研究所蔵)



# 日本文学科(書道)



1 時限

10:30

12:00

テーマ 伝来する王羲之の書

橋本貴朗 准教授 専門分野:書道/仮名、日本書道史

書道史上、最も有名な人物は誰かと言えば、中国・東晋の王羲之の名前が挙げられるでしょう。「書聖」と称される王羲之の書は、日本においても早くから尊重されてきましたが、いつ頃、どのようなものが伝わって来たのでしょうか。そして、日本にもたらされたそれらの書は、その後どのようにして、現在まで伝わって来ているのでしょうか。江戸時代の古筆(古人の筆跡)鑑定にも触れつつ、王羲之の書の、空間・時間を越えた伝来の歴史をたどりたいと思います。

2・3 時限

12:50

16:00

定員  
30名

テーマ 王羲之「喪乱帖」を書く【実習】

野村ひかり 准教授 専門分野:書道/漢字、中国書道史

王羲之の書として伝わる墨跡本のうち、宮内庁三の丸尚蔵館蔵「喪乱帖」を取り上げます。王羲之の晩年の作とされる「喪乱帖」には、どのような書風上の特徴がみられるのか、彼の若書きの作と比較検討しながら、半紙・半切へと臨書を進めていきます。

また伝存の墨跡本は、中国・唐代の摸本とされますが、その複製の技法も追体験したいと思います。「書聖」王羲之の書の臨書を通して、良い書とはどのようなものか、一緒に考えていきましょう。

◎持参するもの:書道用具一式(大筆・小筆・墨(墨汁可)・硯・半紙(30枚程度)・下敷・文鎮など)  
\*半切の紙・下敷は大学で用意します



# 中国文学科



2 時限

12:50

14:20

テーマ 中国古典小説に見る民俗文化

浅野春二 教授 専門分野:中国宗教文化/道教の儀礼と民間信仰の研究

中国古典小説の中には、神・仙人・幽霊・妖怪が登場する話や死んだ人が生き返る話など、不思議な話がたくさんあります。その中のいくつかを取り上げて、現代中国の民俗事象とも関連させながら読んでみたいと思います。これによって、中国民俗文化への理解を深めていきます。



3 時限

14:30

16:00

テーマ 2500年以上前の孔子の言葉をどのように読むのか -『論語』とその注釈-

青木洋司 准教授 専門分野:中国思想/『尚書』解釈研究

『論語』は孔子とその弟子たちの言行録です。孔子は約2500年以上前の中国で活躍した人物にも関わらず、現代の日本においても、その教えは広く親しまれています。この驚異的な隔たりがあるなかで、孔子が親しまれているのは何故でしょうか。また、歴代の『論語』を読解した人々は、この問題をどのように解決したのでしょうか。

今回の講座では、歴代の『論語』解釈をふまえながら、孔子の言葉をどのように読むのか、考えてみます。





# 外国語文化学科

## 1時限

10:30

12:00

テーマ アメリカと移民の架け橋として -ジェーン・アダムズの生涯と思想-

浅井理恵子 教授 専門分野:アメリカ現代史/ジェンダー史

今から160年前、アメリカ・イリノイ州の郊外に1人の女の子が生まれました。のちにソーシャルワークの先駆者となるジェーン・アダムズです。裕福な家庭の子女でありながら両親の死や自身の病など数多くの困難に直面したアダムズは、長いモラトリアムを経て貧しい移民の生活支援に身を投じます。この講義では、社会事業をとおして多文化主義の可能性を切り拓いたアダムズの生涯と思想について考えます。



## 2時限

12:50

14:20

定員  
50名

テーマ 外国語を学ぶための音声学基礎知識

針谷壮一 教授 専門分野:中国語学/アジアの言語と社会

私たちは、自分の母語(日本語)のほかに、高校や大学でさまざまな外国語を勉強します。どんな言語でも、学習の最初の段階で、その言語の文字と発音を習います。音声学の基礎的な知識は、外国語学習に不可欠です。外国語には、日本語には存在しない発音がたくさん使われています。日本語や英語やフランス語や中国語……いろいろな言語に現れる音声を実際に発音しながら、口の動きや、言語の中での使われ方を学びます。



## 3時限

14:30

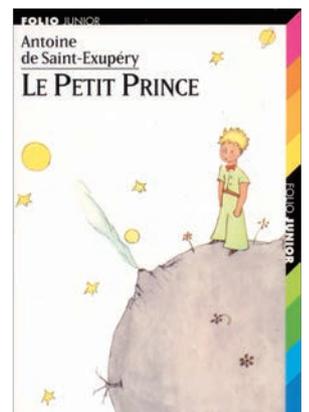
16:00

定員  
25名

テーマ 『星の王子さま』をフランス語で読んでみよう、訳してみよう【演習】

笠間直穂子 准教授 専門分野:近現代フランス語文学

サン=テグジュペリの名作『星の王子さま』(1943年刊)は、世界でもっとも親しまれているフランス語の文学作品でしょう。日本でも多くの翻訳が出版されています。この物語の原典をのぞいてみませんか。フランス語が初めてでも大丈夫。あの有名な場面はどんなふうに書かれているの? 自分ならどう訳す? 原典と複数の翻訳を比較しながら考えます。必ず受講前にどの訳でもよいので日本語訳を読み通してきてください。





# 史学科

## 1時限

10:30

12:00

定員  
30名

### テーマ 動物考古学入門【実習】

谷口康浩 教授 専門分野:先史考古学/縄文時代の社会構造、儀礼祭祀の考古学

群馬県居家以(いやい)岩陰遺跡から出土した縄文時代早期(約1万年前)の動物骨を実際に手に取って観察しながら、動物考古学の基礎的な研究法を学びます。授業の前半では、國學院大學考古学研究室が進めている居家以岩陰遺跡の発掘調査について紹介し、先史考古学の調査法を理解してもらいます。後半では、ニホンジカとイノシシの現生骨格標本と縄文時代の出土動物骨を実際に比較・同定し、縄文人の動物利用について考えてみます。



## 2時限

12:50

14:20

### テーマ 江戸の歴史教科書

根岸茂夫 教授 専門分野:日本近世史/政治史、武家社会、農村史

江戸時代の子供たちが歴史をどのように学んだのかを、寺子屋で使われた教科書を検討しながら考えていく。江戸時代の人々は、現在学校教育で学ぶような歴史知識は持っていなかった。また江戸時代の歴史教育は、時代の流れを学んだり年表を暗記するのではなく、歴史上の人物たちの書状を読みながら、人間としての反省と道徳を学ぼうとするものだった。かつ百姓一揆の訴状など、領主の悪政を糾弾する史料も密かに使用されていた。これらの教科書を見ながら、江戸時代の人々の歴史意識を考えていきたい。



## 3時限

14:30

16:00

### テーマ 荘園絵図と伝統的農村景観の保全

吉田敏弘 教授 専門分野:歴史地理学、地図史/中世絵図研究



中世荘園制の盛期であった12～14世紀、全国各地で荘園を描く絵図が作成された。これら荘園絵図とはいかなる目的で作成され、そこにはいかなる中世農村の景観が描かれているのだろうか?本講義では多くの高精細写真を用いて、荘園絵図の世界を分かりやすく講述するとともに、荘園絵図の風景が今なお色濃く残る陸奥国骨寺村絵図の故地(一関市巖美町本寺地区)で実現した伝統的農村景観保全の事例を紹介し、景観をアイデンティティの核とする地域活性化の可能性を探りたい。

写真左: 小区画が残る一関本寺の農村景観(国選定重要文化的景観)

写真右: 陸奥国骨寺村在家絵図(国重要文化財 平泉・中尊寺蔵)



# 哲学科

## ・日本文学科

統一テーマ

見て読んで考える！江戸文化



### 1時限

10:30

12:00

#### テーマ 弥次喜多、旅に出る

中村正明 准教授 専門分野:江戸後期文学/明治初期文学

江戸時代の文学における最大のベストセラーというと、弥次郎兵衛・喜多八の珍道中で今なお広く知られる『東海道中膝栗毛』です。しかし、弥次喜多の旅は東海道だけで終わっていないことはあまり知られていません。その後、讃岐金比羅山や安芸宮島、そして信州善光寺、草津温泉など多くの寺社や温泉地を巡っていきます。のみならず、弥次喜多の人気にあやかった沢山の模倣作も次々に作られていきます。笑いに満ちた旅する文学の魅力を紹介します。



### 2時限

12:50

14:20

#### テーマ 浮世絵2020 -旅するUkiyo-e-

藤澤紫 教授 専門分野:日本美術史/江戸文化論

日本の美術、さらに江戸のメディア文化を象徴する存在として、今や世界中で愛されている浮世絵。日本のパスポートの新図案に採用された、葛飾北斎の「富嶽三十六景」はとくに有名ですが、この作品はなぜ、江戸時代に大ヒットしたのでしょうか？ また日本を離れ、海外へと旅立った膨大な量の浮世絵は、いま、どのように活用されているのでしょうか？ 旅、名所、信仰などをキーワードに、豊富なスライドと共に国内外の名品の「謎」を読み解きます。



### 3時限

14:30

16:00

#### テーマ 福沢諭吉の江戸時代

藤野寛 教授 専門分野:西洋近代哲学/倫理学

「一身にして二生を経るが如し」と述懐するように、福沢諭吉(1835-1901)は江戸時代と明治時代をそれぞれ33年生きました。中津藩の下級武士の家に生まれ、長崎、大阪、江戸で蘭学を学び教えたのですが、見物に出かけた横浜で英語の重要性に気づき、英語習得に努めた後、1860年に咸臨丸での米国視察団に通訳として参加しました。その後、1862年の遣欧使節、1867年の二度目の米国使節にも参加しました。なんと、江戸時代に三度の洋行経験を持ったのです。教育者(慶応義塾)、ジャーナリスト(時事新報)として生きた明治時代の福澤とは大いに異なる江戸時代の福沢諭吉に光を当てる講義を試みたいと思います。



## 文学塾 申し込み方法

受付期間: 令和2年1月14日(火)～3月14日(土)

### ①個人でお申し込み

「文学塾Web申し込みフォーム」からお申し込みください。  
(國學院大學ホームページ → EVENTS → 「文学塾開催」からアクセス)



### ②学校でまとめてお申し込み(3名以上から受け付けます)

教員が取りまとめ、文学部資料室宛にメールでお申し込みください。  
受講生徒名、年齢、学年、希望講座をリストにして添付してください。  
E-mail: bun\_siryo@kokugakuin.ac.jp ※件名を「文学塾受講申込」としてください。

## 文学塾 申し込みにあたって

- \* 1講座から申し込みできます(複数講座受講も可)。
- \* 定員設定のない講座についても、教室収容人数に応じ、申込期間内に募集を締め切る場合があります。
- \* 中学校・高校の先生方の受講も歓迎します。
- \* 変更等が生じた場合、ホームページでお知らせします。

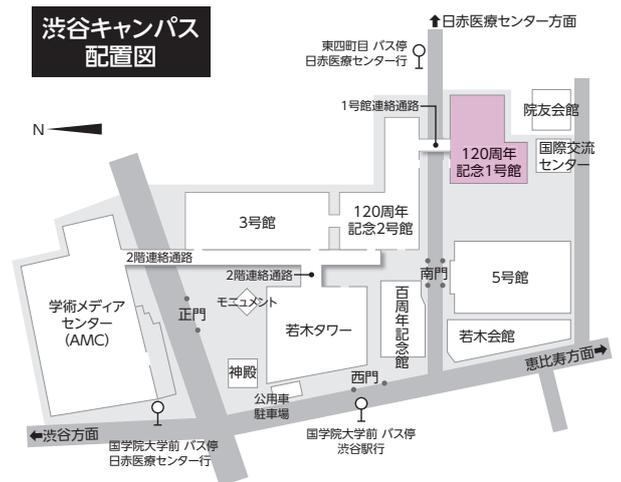
### 個人情報の取り扱いについて

國學院大學では、「個人情報の保護に関する法律」を遵守し、個人情報の適正な取り扱いに努め、安全管理のために必要な措置を講じています。  
文学塾受講申し込みにあたって、お知らせいただいた氏名、住所その他の個人情報は、國學院大學文学部において、文学塾受講に関する管理、連絡および手続き、各種案内とこれに付随する事項を行うために利用するものとします(この利用目的の範囲を超えて使用したり、本人の同意を得ずに第三者に提供することはありません)。  
なお、個人情報の取り扱いの詳細については、大学ホームページをご覧ください。

## 受講にあたっての注意事項

- 当日は國學院大學渋谷キャンパス120周年記念1号館にお越しください[9:45 入場開始]
- 教材、資料等は当日配布します
- ノート、筆記用具を持参してください
- 連続して受講する場合、昼食は各自でご持参いただくか学食(3号館)をご利用ください

## キャンパス案内



- 渋谷駅(JR山手線・地下鉄・京王井の頭線・東急各線)から徒歩約13分
- 渋谷駅JR新南口から徒歩約10分
- 都営バス(渋谷駅東口54番のりば) 学03日赤医療センター前行「国学院大学前」下車(運賃180円・IC178円)

お問い合わせ先 國學院大學文学部資料室

〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28 TEL.03(5466)4813  
E-mail bun\_siryo@kokugakuin.ac.jp